

# 平成26年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果（概要版）

H26.8.25 福島県教育委員会

## 1 調査に関する概要

実施日	平成26年4月22日（火）	
実施校数	小学校 467 校 (16,641 人)	中学校 231 校 (17,371 人)
調査学年	小学校 6 年生	中学校 3 年生
調査教科	小学校 国語、算数	中学校 国語、数学

※ 特別支援学校（小学部）及び特別支援学校（中学部）を含む。

## 2 教科に関する調査の結果

《教科に関する調査の結果の総括（公立）》

- 今回の調査結果については、小学校国語は全国平均をやや上回っており、小学校算数及び中学校国語はおおむね全国平均であるが、中学校数学は全国平均を下回っている。
- 昨年度に比べ全体的に改善傾向が見られる。
- 今後も、知識・技能のより確実な定着と、これらを活用して課題を解決する力の育成に取り組む必要がある。
- 「わかる・できる授業」を目指すとともに、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための学習指導の改善に、より一層取り組む必要がある。

### （1）小学校 国語

- 国語Aの平均正答率は73.3%（全国72.9%）、国語Bの平均正答率は57.0%（全国55.5%）であり、小学校国語については、全国平均をやや上回っている。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着と、それらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

#### ① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,641	467	73.3
全国	1,080,663	20,177	72.9

#### ② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,637	467	57.0
全国	1,080,444	20,176	55.5

### （2）小学校 算数

- 算数Aの平均正答率は78.7%（全国は78.1%）、算数Bの平均正答率は57.8%（全国は58.2%）であり、小学校算数については、おおむね全国平均である。
- 今後は、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着と、それらを実生活の様々な場面に活用する力や筋道立てて考え表現する力の育成に向け、一層効果的な指導方法を工夫していく必要がある。

① 算数A（主として「知識」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,641	467	78.7
全 国	1,080,657	20,177	78.1

② 算数B（主として「活用」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,634	467	57.8
全 国	1,080,442	20,176	58.2

(3) 中学校 国語

- 国語Aの平均正答率は79.4%（全国79.4%）、国語Bの平均正答率は50.5%（全国51.0%）であり、中学校国語については、おおむね全国平均である。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着と、それらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,371	231	79.4
全 国	1,017,965	9,742	79.4

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,366	231	50.5
全 国	1,018,157	9,742	51.0

(4) 中学校 数学

- 数学Aの平均正答率は64.7%（全国67.4%）、数学Bの平均正答率は56.8%（全国59.8%）であり、中学校数学については、全国平均を下回っている。
- 今後は、数学的活動をより一層重視し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるための演習とまとめの時間の充実と、それらを活用し、数学的に思考し説明する力等の育成に向けた指導の改善を図る必要がある。

① 数学A（主として「知識」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,369	231	64.7
全 国	1,018,328	9,741	67.4

② 数学B（主として「活用」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,371	231	56.8
全 国	1,018,365	9,741	59.8

3 児童生徒質問紙調査の結果

〈質問番号〉：(24)

「家で、学校の授業の復習をしていますか」について

- 家で、学校の授業の復習をしている小学生の割合は 69.6 %、中学生の割合は 61.6 %であり、どちらも全国の割合（小：54.0 %、中：50.4 %）より高い。  
また、25年度調査と比較すると、復習をしている割合が小学生で2.3ポイント、中学生で0.6ポイント高くなっている。
- このことから、家庭においてその日の授業を振り返り、学習内容の定着を目指し、努力する子どもたちの姿が見える。授業と家庭学習の関連が図られてきていることから、今後は、より充実した家庭学習となるよう、各学校が積極的に子ども一人一人に対する具体的な支援を行うことが大切である。

〈質問番号〉：(14)

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）」について

- 学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間については、月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は71.7 %、中学生の割合は71.3 %であり、どちらも全国の割合（小：62.0 %、中：67.9 %）より高い。  
また、月～金曜日の学習時間が30分より少ない、または全くしない小学生の割合は6.6 %、中学生の割合は10.2 %であり、どちらも全国の割合（小：12.7 %、中：14.7 %）より低い。  
25年度調査と比較すると、1時間以上学習している割合は、小学生で1.8ポイント、中学生で2.1ポイント低くなっている。
- 子どもたちの家庭における学習習慣は定着してきているが、今後もさらに学習時間の確保や学習内容の質の向上に向け、なお一層、家庭と連携した取組を継続したい。

〈質問番号〉：(12)

「普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について

- 月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している小学生の割合は31.4 %、中学生の割合は34.4 %であり、小学生の割合は全国の割合（30.3 %）より高く、中学生の割合は全国の割合（35.4 %）より低い。  
25年度調査と比較すると、月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している割合は、小学生で0.6ポイント、中学生で7.4ポイント高くなっている。
- この現状から、小・中学生ともにゲームをする時間をさらに減らし、その時間を家庭学習や読書の時間に充てさせるなど、継続的な取組が大切である。



平成26年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果

平成26年8月25日  
福島県教育庁義務教育課

# 目 次

I	調査の概要	1
II	教科に関する調査の結果	
1	教科に関する調査の結果についての総括（公立）	1
2	教科に関する調査の結果（公立）	
(1)	小学校 国語（公立）	2
(2)	小学校 算数（公立）	7
(3)	中学校 国語（公立）	12
(4)	中学校 数学（公立）	17
III	児童生徒質問紙調査の結果	22
IV	今後の指導に当たって	27
V	各学校における組織的・継続的な取組	30

# 平成26年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果

平成26年8月25日  
福島県教育庁義務教育課

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 実施日

平成26年4月22日（火）実施

### 3 4月22日に調査を実施した学校・児童生徒数（公立）

	4月22日調査実施 学校数（児童生徒数）	備 考
小学校	467校(16,641人)	臨時休業中4校を除く。
中学校	231校(17,371人)	臨時休業中2校を除く。
合 計	698校(34,012人)	

※ 特別支援学校（小学部）及び特別支援学校（中学部）を含む。

## II 教科に関する調査の結果

### 1 教科に関する調査の結果についての総括（公立）

- 今回の調査結果については、小学校国語は全国平均をやや上回っており、小学校算数及び中学校国語はおおむね全国平均であるが、中学校数学は全国平均を下回っている。
- 昨年度に比べ全体的に改善傾向が見られる。
- 今後も、知識・技能のより確実な定着と、これらを活用して課題を解決する力の育成に取り組む必要がある。
- 「わかる・できる授業」を目指すとともに、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための学習指導の改善に、より一層取り組む必要がある。

## 2 教科に関する調査の結果（公立）

### (1) 小学校 国語（公立）

- 国語Aの平均正答率は73.3%（全国72.9%）、国語Bの平均正答率は57.0%（全国55.5%）であり、小学校国語については、全国平均をやや上回っている。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着と、それらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

#### ① 国語A（主として「知識」に関する問題）

国語A	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,641	467	11.0/15	73.3%	11.0	3.0
全国	1,080,663	20,177	10.9/15	72.9%	12.0	3.1

#### ◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題（例）

<b>6</b>	一 二	複数の事柄を並列の関係で書くこと。 仮定の表現として、適切なものを捉えること。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="font-size: small;">一 ア 部は、「〜たり」が一回しか使われていないので、適切な表現ではありません。「〜たり」は、複数の内容を並べるときに使う言葉です。ア 部を「〜たり、…たり」という表現を使って書き直しましょう。                      （解答には、「〜」と「…」の記号は必要ありません。）</p> <p style="font-size: small;">二 イ部はそのあとに続く「母」の注意に耳をかたむけていたらよかったです。このように、適切な表現ではありません。イ部を書き直すときに使うことが出来る言葉を、1から5までのの中から三つ選んで、その番号を書き直しましょう。                      （解答の順序は、問いません。）</p> <p style="font-size: small;">1 なるならば 2 なるし 3 なるのに 4 なるのだったら 5 なるのであれば</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="font-size: small;"><b>6</b> 黒木さんは、次の「きのこの出来事」についての文章を書いたあと、読み返して、適切な表現にしようとしています。あとの一と二の問いに答えましょう。</p> <p style="font-size: small;">【きのこの出来事】 わたしは、きのこの夜、母に注意されたのに、おそくまでテレビを見たり、音楽を聞きました。そのため、夜にねむれなくなってしまいました。このようなことになったのは、母の注意に耳をかたむけていたらよかったですと反省しました。</p> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">【正答】 一 「テレビを見たり、音楽を聞いたりしました。」 二 1・4・5</p>		
自分の書いた文章を推敲し、書き直す場面を取り上げ、文や文章の構成を理解して、適切な表現で書くことができるかをみる問題である。平均正答率は、設問一が 77.3 %（全国 74.9 %）、設問二が 83.8 %（全国 83.1 %）であり、ともに全国の平均正答率を上回っている。設問一は、複数の事柄を含む文の並列関係を理解し、「〜たり、…たり」を的確に用いること、設問二は文中の照応関係を理解し「〜ならば」「〜だったら」「〜であれば」といった仮定の表現を捉えることが求められる。指導に当たっては、文や文章を論理的に整えて書くことができるようにするために、語句と語句の係り方や照応の仕方、文と文とのつながりを意識させることが重要である。授業では、各学年の発達段階を踏まえ、語句の意味を正しく捉えることや接続語の役割、いろいろな文の構成について理解し活用していくことができるように指導していくことが大切である。		



◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

3	情景描写の効果を捉えること。
<p>4 良太の行動</p> <p>3 良太の周りの風景</p> <p>2 良太の心の中の声</p> <p>1 良太の顔の表情</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: right;">3</p> <p>次は、南田さんが想像したことをもとにして書いて「物語の一部」です。南田さんは、橋本さんから助言をもらっています。あとの【二人の会話の様子】の中に入る内容として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。</p> </div> <p style="text-align: center;">【物語の一部】</p> <p>良太は、小学三年生の男の子。春休みに、大きな町から引っこしてきました。四月、引っこした先の学校に通い始めましたが、はずかしがり屋の良太は同じ学級の人に声をかけることができませんでした。</p> <p>おだやかな風がふく、ある日のことです。学校から家に帰った良太は、近くの公園に出かけました。その公園は、学級の人々がよく遊んでいる場所です。学級のだれかと会って話をしたくて、そこでじっと待つことにしました。しかし、公園にはだれも来ません。</p> <p>良太は、さびしい気持ちでいっぱいになりました。</p> <p>「こんなところなんてさらいだ。友達なんていないや。」</p> <p>と、小さな声でつぶやきました。</p> <p>（物語が続く）</p>
<p>【正答】</p> <p style="text-align: center;">3</p>	<p style="text-align: center;">【二人の会話の様子】</p> <p>南田 —— 部では、良太の気持ちを「さびしい」と表現したけど、「さびしい」という言葉を使わずに、うまく表現できないかな。</p> <p>橋本 それならば、その気持ちを <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span> で表したらどうだろう。</p> <p>南田 それはいいね。（しばらく考える。）</p> <p>では、「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」としたらどうかな。</p> <p>橋本 そうだね。そのように書きかえると、「さびしい」という言葉を使わなくても、読み手に良太の気持ちや様子を想像させることができると思うよ。</p> <p>（会話が続く）</p>

創作した物語の主人公の心情を情景描写による表現に書き換えることで、表現の効果が高まることを捉えることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は、55.6%（全国 58.7%）であり、全国の平均正答率を下回っている。物語の表現方法の特徴やその効果を捉えることに課題が見られる。

この問題では【二人の会話の様子】において、主人公の心情を「さびしい」という直接的な表現ではなく、「灰色の雲が広がり」、「だんだんと暗くなって」いく公園の様子によって表現することで、読み手に想像させる効果が高まることを捉える必要がある。また、「いつの間にか……暗くなってきました」という表現が表している心情を理解し説明できなければならない。

指導に当たっては、物語の表現方法の特徴やその効果を考えさせるために、授業の中で、経験したことや想像したことをもとに物語を創作する言語活動を位置付けることが有効である。例えば、経験を基に自分を中心人物に設定した物語や、写真や絵を基に想像を広げて書く物語の創作など様々な工夫が考えられる。その際、登場人物の設定、物語全体の構成の効果、語り手の視点などといった基本的な物語の特徴を理解させることが大切である。創作した物語の構成や表現の効果などについて相互に評価する場面も積極的に設定していきたい。また、読むことの指導との関連を図りながら、登場人物の心情を読み取る際の根拠として、直接的に描写されているものだけでなく、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されているものもあることを捉えることができるように指導することも大切にしたい。

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

国語B	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,637	467	5.7/10	57.0 %	6.0	2.3
全国	1,080,444	20,176	5.5/10	55.5 %	6.0	2.4

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題（例）

3	三 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くこと。
<p style="text-align: right;">3</p> <p>北川さんの学級では、まど・みちおがたんぼを題材にして書いた【詩1】と【詩2】を比べて読み考えたことについてグループに分かれて交流することにしました。この二つの詩と「グループでの交流の様子」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。</p>	<p style="text-align: center;">【詩1】（まど・みちお「タンポポ」による。）</p> <p style="text-align: center;">【詩2】（まど・みちお「たんぼさんがよんだ」による。）</p> <p>三 あなたは、【詩1】と【詩2】を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件に合わせて書きましょう。</p> <p>（条件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。</li> <li>○ 「たんぼ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。</li> <li>○ 八十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。</li> </ul> <p>【正答例】</p> <p>二つの詩は、まど・みちおさんの植物や動物を愛する気持ちが伝わってくるという点で共通していると考えました。たんぼぼや動物たちの仲のよい様子を想像することができて、心が温まり、やさしい気持ちになりました。（百字）</p> <p>まど・みちおさんは、【詩2】では同じ言葉をくり返し表現しているのに対して、【詩1】ではそれぞれちがうたんぼぼのよび方を表現しています。詩の表現にはいろいろな方法があつて、おもしろいと思いました。（九十七字）</p>
<p>二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題である。この問題では、二つの詩の内容や表現の仕方などに着目した上で、詩を解釈し、共通点や相違点を取り上げ、条件に合わせて自分の考えを書くことが求められる。平均正答率は、57.3 % (全国 48.1 %) と全国の平均正答率を大きく上回っており、無回答率も17.8 % (全国 26.0 %) である。多くの学校で、自分の考えを書く機会を意図的に設定した授業が展開されてきたこと、また、定着確認シートなどを活用し、目的や意図を考え条件に合わせて作文を書く活動を継続的に実践してきたことの成果といえる。</p> <p>指導に当たっては、詩を読む目的を明確にし、感想、解説、推薦などの文章にして考えをまとめ、発表し合うという一連の学習の流れを大切にしたい。また、詩を比べて読むことは多様な表現の工夫に気付くことができる有効な学習活動である。同じ作者の作品や同じテーマの作品を集めて、比べて読む活動を積極的に取り入れていきたい。詩の解釈について発表し合う際には、一人一人の感じ方に違いがあることを理解させながら、互いに考えたことがどのように共通したり相違したりしているかなどを明らかにさせることが大切である。発表を通して児童自らが自分の考えを広げたり深めたりしていく力を育成していく必要がある。</p>	

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

1 一 目的に応じて、話し合いの観点を整理すること。

【話し合いの様子】の中の司会④の「ア」の中には、丸山さんと平川さんの発言に共通する観点が入ります。ふざかしい内容を、二人の発言に共通する言葉を使って、十二文字以内で書きましよう。

手書きの立場からパソコンを使う立場への質問や意見

「記念に残る卒業文集のあり方」について

あなた

大野さんの発言に対して「ア」があります。

イ

【話し合いの様子】①・②・③・④・⑤の発言の内容は、あとの問いと関係があります。

司会 これから話し合いをします。今回の議題は「卒業文集はパソコンを使うか、手書きにするか」ということです。まず、パソコンを使う立場からの主張をお願いします。

平川 ①いい、ぼくは、パソコンを使う方がよいと思います。手書きは、文字を書いたり消したりするのがめんどくさいです。パソコンであれば、何度でも簡単に書き直さず済むので、作業に取り組みやすいと思います。

関口 ②私もパソコンを使う方がよいと思います。記念に残る卒業文集なので、読みやすくて書きやすいです。手書きは、場所や時間を気にせず、自分のペースで作業を進めることができます。手書きであれば、場所や時間を気にせず、自分のペースで作業を進めることができます。手書きであれば、場所や時間を気にせず、自分のペースで作業を進めることができます。

丸山 ③丸山さんの発言に対して質問があります。私はパソコンの操作が得意ではありません。パソコンを使って文章を書くことに慣れていない人は、学校に何人くらいいると考えていますか。

丸山 ④丸山さんの発言に対して質問があります。私はパソコンの操作が得意ではありません。パソコンを使って文章を書くことに慣れていない人は、学校に何人くらいいると考えていますか。

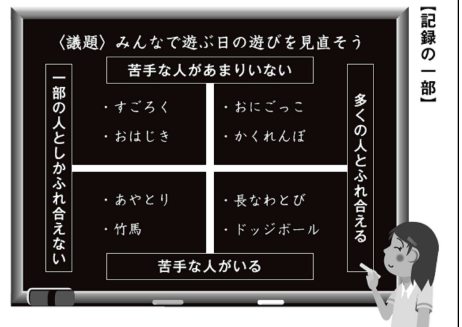
丸山 ⑤丸山さんの発言に対して質問があります。私はパソコンの操作が得意ではありません。パソコンを使って文章を書くことに慣れていない人は、学校に何人くらいいると考えていますか。

[正答例]  
 作業への取り組みやすさ(11字)  
 作業への取り組み(8字)

目的に応じて、話し合いの観点を整理することができるかどうかをみる問題である。この問題では、司会者として「パソコンを使う立場」と「手書きの立場」のそれぞれの立場の主張の共通点を捉え、「作業」「取り組みやすい」という言葉をもとに話し合いの観点を簡潔に整理する力が求められる。学習指導要領〔第5学年及び第6学年〕「話すこと・聞くこと」における(イ)調べたことやまとめたことについて討論するという言語活動を問題にしたものである。平均正答率は63.1%（全国65.2%）であり、全国の平均正答率を下回っている。複数の発言内容について、それぞれの中心を捉え共通の観点を整理することに課題が見られる。

指導に当たっては、教師自身が司会の役割を明確に押さえることが必要である。目的や意図に応じて計画的に話し合うために、司会は重要な役割をもつ。特に、話し手の発言を受け止め、話し合いを進めていく上で適切な観点を設定していくことが大切である。発言内容をよく聞き考えの中心を捉える、複数の発言内容を聞き分け考えの立場や見解を分類・整理するなどして、適切な観点を設定できるように指導することを大切にしたい。また、各教科等との関連も図り、全員が司会の役割を経験する機会を設けるなどして、具体的に指導していきたい。

国語Aには、話し合いの内容を黒板に記録したものを提示し、そのまとめ方の特徴を問う問題が出題されている。黒板への記入、ノート記録、まとめの発表など、様々な役割を児童に経験させたい。



(国語A 7)の問題)

### 【小学校国語における課題等】

- ◇ (A) 正しく漢字を読むこと、書くこと。〔1(1)(2)2(1)〕
- ◇ (A) 仮定の表現として、適切なものをとらえること。〔6二〕
- ◇ (B) 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えること。〔3一〕
- ◆ (A) 情景描写の効果を捉えること。〔3〕
- ◆ (A) 物語の登場人物の相互関係を捉えること。〔5〕
- ◆ (A) 話合いの観点に基づいて情報を関係付けること。〔7〕
- ◆ (B) 目的に応じて、話合いの観点を整理すること。〔1一〕
- ◆ (B) 目次や索引を活用して本を効果的に読むこと。〔2三〕

※ ◇…相当数の児童ができている問題 ◆…課題のある問題  
( )内の記号は、A…国語A、B…国語B [ ]内の記号は、問題番号

- 漢字を正しく読んだり書いたりすることは、相当数の児童ができている。また、故事成語の意味や使い方の理解も高く、言語に関する基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていることがうかがえる。今後は、定着に向けて継続的な指導を続けていくとともに、漢字、慣用句などを児童自らが文章の中で活用できるようにしていく指導を充実させていく必要がある。
- 記述力の育成が図られ、条件に合わせて自分の考えを書く力が高まってきている。特に作文の問題において全国の平均正答率を大きく上回っている。書くことが子ども考えを整理したり深めたりする重要な言語活動であるということ再認識し、今後も、書く活動を授業の中に意図的・計画的に位置付けていきたい。複数の資料を比べて共通点や相違点を見いだして書く、決められた語句を使って書くなど、目的に応じて様々な条件を与えることにより、書く力をさらに鍛えていく必要がある。
- 話合いにおける司会者の役割について課題が見られた。目的や意図に応じて計画的に話し合うために司会は重要な役割をもつ。特に、話し手の発言を受け止め、適切な観点を設定していくことが求められる。そのために、司会者には、まず、発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えることができるようにするとともに、複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類・整理するなどして適切な観点を設定して進行できるように指導することが大切である。
- 物語の登場人物の相互関係を捉えることに課題が見られた。物語などの文学的な文章では、登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながらか読むことが重要である。そのためには、中心人物を押さえ、その人物と周囲の登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像がわかる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導を一層重視したい。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分な状況が見られた。基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して課題を解決していく能力は、児童が主体性をもって学習に取り組んでいく中で相互に関連し一体的に高まっていくものである。単元を構想する際は、ねらいを明確にし、児童が主体的に取り組むことのできる効果的な言語活動を位置付けることが重要である。

(2) 小学校 算数 (公立)

- 算数Aの平均正答率は78.7% (全国は78.1%)、算数Bの平均正答率は57.8% (全国は58.2%)であり、小学校算数については、おおむね全国平均である。
- 今後は、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着と、それらを実生活の様々な場面に活用する力や筋道立てて考え表現する力の育成に向け、一層効果的な指導方法を工夫していく必要がある。

① 算数A (主として「知識」に関する問題)

算数A	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,641	467	13.4/17	78.7%	14.0	3.1
全国	1,080,657	20,177	13.3/17	78.1%	14.0	3.2

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題 (例)

- ① (5) ○ 減法と乗法の混合した整数の計算をすること。
- ② (2) ○ 図に示された数量の関係を読み取り、比較量を求めるために乗法が用いられることを理解していること。
- ⑨ ○ 二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すこと。

(5)  $100 - 20 \times 4$

[正答] 20

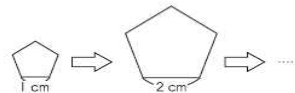
(2) 青いテープの長さを求める式を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1  $80 + 0.6$
- 2  $80 - 0.6$
- 3  $80 \times 0.4$
- 4  $80 \div 0.4$

[正答] 3

⑨

正五角形の1辺の長さを1 cm, 2 cm, 3 cm, ……と変えたときのまわりの長さを調べて、下の表にまどめました。



1辺の長さ (□cm)	1	2	3	4
まわりの長さ (△cm)	5	10	15	20

1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとして、□と△の関係を正しく表している式を、次の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1  $\Delta + 5 = \square$
- 2  $\square + 5 = \Delta$
- 3  $\Delta \times 5 = \square$
- 4  $\square \times 5 = \Delta$

[正答] 4

①設問 (5) は、減法と乗法の混合した整数の計算ができるかどうかを問う問題である。平均正答率は 88.2% (全国 80.9%) であり、全国の平均正答率を上回っている。

②設問 (2) は、割合が 1 より小さい場合でも、比較量の求め方が (基準量) × (割合) になることを理解しているかどうかを問う問題である。平均正答率は 57.1% (全国 54.1%) であり、全国の平均正答率を上回っている。

⑨は、二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができるかどうかを問う問題である。平均正答率は 83.1% (全国 82.0%) であり、全国の平均正答率を上回っている。

今後とも指導に当たっては、計算の技能の習熟を図るために、必要に応じて繰り返し指導することが重要である。また、割合 (倍) が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗法の意味を拡張し、理解を深める指導を大切にしていくことも必要である。更に、二つの数量を□、△などに置き換えて立式することで、□、△などが用いられる場面を理解できるようにすることも重要である。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

3	○ 分数の相等及び大小について理解していること。
4 (1)	
6	
○ 二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けること。	
○ 作図に用いられている図形の約束や性質を理解していること。	

**3**

次の分数のうち、 $\frac{1}{2}$  より大きいものは、どれですか。

下の 1 から 4 までの中から選んで、その番号を書きましょう。

1  $\frac{3}{5}$

2  $\frac{3}{6}$

3  $\frac{3}{8}$

4  $\frac{3}{10}$

[ 正 答 ] 1

**4**

Aの部屋の  $1\text{ m}^2$  あたりの人数を調べます。

Aの部屋の面積は  $8\text{ m}^2$  で、部屋の中には 16人います。

(1) Aの部屋の様子を表している図はどれですか。下の 1 から 4 までの中から 1つ選んで、その番号を書きましょう。

ただし、●は1人を表します。

1

2

3

4

[ 正 答 ] 4

**6**

下の平行四辺形 ABCD をかきます。

まず、辺 AB と辺 BC をかきました。

次に、下のかき方で平行四辺形をかきます。

コンパスを使ったかき方

<p>① 点 A を中心として、半径 <math>4\text{ cm}</math> (辺 BC の長さ) の円の一部をかく。</p>	<p>② 点 C を中心として、半径 <math>3\text{ cm}</math> (辺 AB の長さ) の円の一部をかく。</p>
<p>③ 交わった点を D とする。</p>	<p>④ 点 A と点 D、点 C と点 D を直線で結ぶ。</p>

左のコンパスを使ったかき方は、平行四辺形のどの特ちょうを使っていますか。下の 1 から 4 までの中から 1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 向かい合っている辺が平行である。

2 向かい合っている辺の長さが等しい。

3 向かい合っている角の大きさが等しい。

4 2本の対角線がそれぞれの真ん中の点で交わる。

平行四辺形は、

[ 正 答 ] 2

③は、分数の相等及び大小について、分数の表し方は異なっても数としては同じ大きさを表していることを理解していること、また、分数のおよその大きさを捉え、それを基に大小が判断できるかを問う問題である。平均正答率は 67.8% (全国 72.5%) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、分数を具体物、図、数直線などを用いて表すことで、「半分より大きい」、「1より大きい」といった分数の大きさについて、実感を伴って理解できるようにすることが重要である。

④設問(1)は、二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを求めるために、図と関連付けることができるかどうかを問う問題である。平均正答率は 79.6% (全国 82.3%) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、読み取った人数と面積の関係を図に表す活動を取り入れることが重要である。またその際、平均の考えなどについて着目させることも考えられる。

⑥は、作図が図形のどのような約束や性質を使っているのかを考え、それを基に作図できるかどうかを問う問題である。平均正答率は 49.8% (全国 52.0%) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、作図の手順を図形の特徴と対応付けて理解させることが重要である。例えば、二等辺三角形には、「二辺の長さが等しい」という特徴がある。一方、作図に用いられるコンパスは、等しい長さを移すことができる。これらのことを確認して作図することが大切であることを理解させたい。

② 算数B（主として「活用」に関する問題）

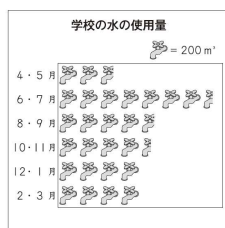
算数B	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,634	467	7.5/13	57.8%	8.0	3.3
全国	1,080,442	20,176	7.6/13	58.2%	8.0	3.3

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題（例）

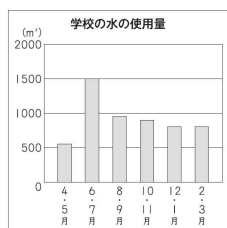
- ②(3) ○ 表す目的に応じたグラフを選択すること。
- ④(2) ○ 場面の状況を倍数の考え方を基に解釈し、数学的に表現すること。

(3) あきらさんは、6・7月の水の使用量が1年間の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明します。下の1から4までのどのグラフを使うと最もわかりやすいですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。

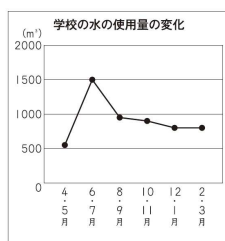
1 絵グラフ



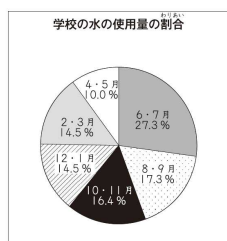
2 棒グラフ



3 折れ線グラフ



4 円グラフ



(2) 次に、けい子さんも加わって、まさるさんと演奏することになります。けい子さんは、カスタネットでの下の6小節のリズムを何回かくり返します。けい子さんの6小節目とまさるさんの4小節目は、同じリズムです。これを、㊦のリズムとします。

けい子

6小節のリズム

まさる

4小節のリズム

けい子さんとまさるさんは、同時に演奏を始めました。すると、12小節目に2人の㊦のリズムが重なりました。2人の㊦のリズムが重なる12小節目の「12」は、どのような数ですか。言葉と「4」と「6」の数を使って書きましょう。

〔正答〕4

〔正答〕(例) 12は、4と6の最小公倍数です。

②設問(3)は、全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は62.8%（全国61.5%）であり、全国の平均正答率を上回っている。

④設問(2)は、二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できるかどうかをみる問題である。平均正答率は65.8%（全国60.5%）であり、全国の平均正答率を上回っている。

今後とも指導に当たっては、自分の考えを数量を基に分かりやすく他者に伝えたいときには、伝えたい事柄や目的に応じて、効果的にグラフを用いることが大切であることを理解させたい。また、それぞれのグラフを用いる場面について考え、グラフの特徴を明らかにする指導も重要である。更に、日常生活の事象を算数の内容と関連付け、学習した算数の用語を用いて的確に表現できるようにすることは、算数と日常生活との関わりについて興味・関心を高める上でも重要である。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

- 1 (2) ○ 示された計算のきまりを解釈し、それを基に、異なる数値の場合の計算の工夫を数学的に表現すること。
- 3 (1) ○ 条件に合う時間を求めること。
- 5 (2) ○ 示された情報を解釈し、基準量、比較量、割合の関係を正しく表している図を選択すること。

2人は、実際に筆算で計算しなくても、 $37 \times 3 = 111$  をもとにすると、 $37 \times 6$  の積が222になることに気づき、次のように説明しました。

**ざとさんの説明**

$$37 \times 6 = 37 \times (3 \times 2)$$

$$= (37 \times 3) \times 2$$

$$= 111 \times 2$$

$$= 222$$

**よし子さんの説明**

$37 \times 6$  の6は  $3 \times 2$  と考えることができます。

すると、 $37 \times 6$  の積は  $37 \times 3$  の2倍の大きさになります。

だから、積は111の2倍の222になります。

(2) 次に、 $37 \times 24$  の積が888になることを説明します。

2人の説明のどちらか一方をもとにして、 $37 \times 24$  の積が888になることを、式や言葉を使って書きましょう。

**[正答] (例)**

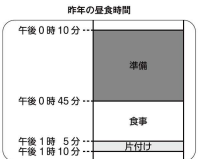
$37 \times 24$  の24は  $3 \times 8$  と考えることができます。すると、 $37 \times 24$  の積は  $37 \times 3$  の8倍の大きさになります。だから、積は111の8倍の888になります。

**3** かつやさんの学級では、宿習学習の計画を立てています。かつやさんたちは、昨年の昼食時間について、下の2つの問題点があったことを先生から聞き、解決方法を話し合うことになりました。

① ゆっくり準備したので、食事の時間や片付けの時間が遅かった。

② ご飯を分け終わったとき、足りなくなったり、残ったりした。

(1) まず、下の昨年の昼食時間の図をもとに、①の問題点について話し合いました。




今年も昼食時間は、午後0時10分から午後1時10分までです。かつやさんたちは、昨年より食事の時間を5分間長く、片付けの時間を3分間長くすることにしました。

今年準備の時間を何分間にすればよいですか。答えを書きましょう。

**[正答] 27**

(2) まことさんは、使いやすいはしの長さのめやすについて発表します。




使いやすいはしの長さのめやすは、「一あた半」と言われています。

一あたは、親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。

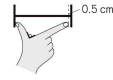
一あた半は、一あたを1.5倍した長さです。

下の1から4までの中から、一あた半の長さを表しているもの( )を1つ選んで、その番号を書きましょう。

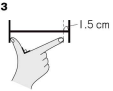
1



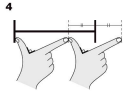
2



3



4



**[正答] 4**

**1**設問(2)は、示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述する問題である。平均正答率は53.8% (全国55.2%) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、乗法による数の表現が多様にあることを確認し、どの数を用いると、より合理的、能率的に処理できるのかを話し合う活動を取り入れることも必要である。また、いろいろな考え方や解決方法を解釈することで、表現方法のよさに気付いたり、見方を変えて新しい解決方法を考えたりすることができるようにすることも重要である。

**3**設問(1)は、示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は33.9% (全国38.6%) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、日常生活において、規則正しい生活をしたり、行動の計画を立てたりするためには、時刻を読むことや、条件に合わせて時刻や時間を求めることが大切であり、それらを児童に実感させることが必要である。また、情報や条件を図の中に表し、整理することで、時間の増減について筋道を立てて考え、時間を求めることができるようにすることも重要である。

**5**設問(2)は、示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は44.9% (全国46.1%) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、小数倍の意味の理解において、基準量、比較量、割合の関係を的確に捉えることが困難である場合が多いため、数量の関係を図に表すことで、基準量と比較量の大きさの関係を明らかにすることが重要である。その際、繰り返し図を用いて、具体的に小数倍の大きさを理解できるようにすることが必要である。



【小学校算数科における課題等】

- ◇(A) 整数や小数、分数の四則計算ができること。〔1〕
- ◇(A) 体積の単位（ $1\text{ cm}^3$ ）と測定について理解していること。〔5〕(2)〕
- ◇(A) 四則の混合した式の意味について理解していること。〔8〕
- ◇(A) 二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すこと。〔9〕
- ◇(B) 示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数) × (1位数) の筆算ができること。〔1〕(1)〕
- ◇(B) 示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができること。〔2〕(1)〕
- ◆(A) 分数の相等及び大小について理解していること。〔3〕
- ◆(A) 二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けること。〔4〕(1)〕
- ◆(A) 作図に用いられている図形の約束や性質を理解していること。〔6〕
- ◆(B) 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述することができること。〔1〕(2)〕
- ◆(B) 示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述することができること。〔3〕(3)〕
- ◆(B) 示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができること。〔5〕(2)〕

※ ◇…相当数の児童ができていない問題 ◆…課題のある問題

( ) 内の記号は、A…算数A、B…算数B、〔 〕内の記号は、問題番号

- 整数や小数、分数の四則計算、式の意味についての理解、□などの記号を用いて式に表すことなど、数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着を問う問題では、相当数の児童ができていない。
- 異種の二つの量の比べ方の理解、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉えること、図形の作図に課題が見られる。
- 「方法」と「理由」を記述する問題に課題が見られるものの、算数Bに5問設けられた記述式の問題で、無解答率は全国平均をすべて下回っていることから、数学的に表現しようとする態度が高まってきていることがうかがえる。
- 過去の調査の結果から、「基準量」「比較量」「割合(倍)」の関係を適切に捉え、場面と図とを関連付けて百分率や異種の二つの量の割合について理解し、処理することに課題があることが明らかになった。
- (20年度B〔2〕(3)) 他者の考えが正しいかどうかを割合の考えを用いて判断し、その理由を記述する。 (正答率 本県：14.8%、全国：17.3%)
- (21年度B〔5〕(3)) 基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述する。 (正答率 本県：17.7%、全国：17.7%)
- (22年度B〔5〕(2)) 割合が一定の場面で、比較量が最も大きくなるときの基準量を判断し、その理由を記述する。 (正答率 本県：15.3%、全国：17.1%)
- (25年度A〔4〕) 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解する。 (正答率 本県：45.7%、全国：50.0%)
- (26年度A〔4〕(1)) 二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける。 (正答率 本県：79.6%、全国：82.3%)

(3) 中学校 国語 (公立)

- 国語Aの平均正答率は79.4% (全国79.4%)、国語Bの平均正答率は50.5% (全国51.0%)であり、中学校国語については、おおむね全国平均である。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着と、それらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

① 国語A (主として「知識」に関する問題)

国語A	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,371	231	25.4/32	79.4%	27.0	5.7
全国	1,017,965	9,742	25.4/32	79.4%	27.0	5.7

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題 (例)

4 一 集めた材料を分類するなどして整理すること。  
二 叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換えること。

「憧れの先輩に学ぶ!」

5月13日、サッカー部では、本校の卒業生、プロサッカー選手の青木太郎さんをお迎えして「サッカー講習会」を行いました。翌朝、青木さんを先導し、グラウンドに登場しました。

青木さんが、 [ ]グラウンドに登場しました。

第一中学校 Daiichi JHS

トップページ

- ▶ 校長室より
- ▶ 学校便り
- ▶ 学校行事
- ▶ 各学級のニュース
- ▶ お問い合わせ
- ▶ 部活動
  - 会員の募集
  - 委員会・部活動の取り組み
  - ボランティア募集
  - あいさつ運動

1 在席の手元  
2 授業の様子  
3 本校までの案内  
4 生徒会活動

【正答】  
一 4  
二 (例) 部長に先導され・部長の先導により

学校のウェブページを作成する場面を取り上げ、集めた材料を分類して整理したり、目的や意図に応じて適切に書き換えたりすることを求めている問題である。平均正答率は、設問一が 93.8% (全国 92.6%)、設問二が 80.6% (全国 80.5%) であり、それぞれの設問において全国の平均正答率を上回っている。

設問一には項目の内容をまとめる言葉が入る。日常生活の中で生徒が目にするウェブページは、様々な情報が整理され、全体の構成を考えて示されている。まとめごとに見出しを付ける学習や情報の分類の仕方を様々な場面で活用させる学習などが必要である。

設問二では叙述の仕方などを確かめ必要に応じて適切に書き換える力を身に付ける必要がある。同じ事柄について主語が異なる二つの文を示し、主語に応じて変わる部分を確認したり、読み手の立場になって伝わり方の違いを比べたりする学習活動が有効である。その際、小学校学習指導要領の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における、語句に関する事項の指導を踏まえることが重要である。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

6 一 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること。  
二 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと。

【黒板】

題名の候補について		候補	はばたき ～きずなを胸に～
		メモリー ～いつも胸に友がいた～	
整理	共通点	学校の団結力	
相違点	過去の思い出		

【話し合いの一部】

岩田さん（司会）

「メモリー」いつも胸に友がいた」と「はばたき」きずなを胸に」に絞りました。今日は、題名を決定します。まず、それぞれの題名の推薦者から再度意見を聞きまます。そして、話し合ってから再度意見を聞きまます。そして、話し合ってから再度意見を聞きまます。そして、話し合ってから再度意見を聞きまます。

南さん

「はばたき」きずなを胸に」を推薦する理由は二つあります。一つめは、未来にはばたいていく私たちの姿を表すことからです。二つめは、何事も団結して取り組んだ学校のことが「きずな」という言葉に込められているからです。

高橋さん

「メモリー」いつも胸に友がいた」がよいと考えます。修学旅行や合唱などの思い出を記録するのが文集だからです。読み返すたびに楽しかった過去を思い出出すことでしょうか。また、副題から、学校でいつも団結できたことも表せます。

【黒板】

1 題名の候補を他にも複数挙げさせ、これまでの二つの案と比べてそれぞれのよさを述べさせる。  
2 どちらの題名がよいかすぐに手を挙げさせ、その結果を参考にして最終的に司会が決定する。  
3 それぞれの題名に賛成する人たちでグループを作り、そこで出た意見を回までに整理する。  
4 推薦理由の共通点を確認し、相違点について他の人から質問や意見を求めて題名を一つに絞る。

【話し合いの一部】

「黒板」にある相違点の欄の□に当てはまる言葉を、高橋さんの発言の中にある言葉を使って、六字以内で書きなさい。

「このあと、司会の岩田さんは、どのように話し合いを進めていけばよいですか。次の1から4までのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。」

【正答】

一（例）  
未来の姿  
私たちの未来

二 4

卒業文集の題名について話し合う場面設定で、題名を決定するという目的を踏まえ、二つの提案の共通点と相違点を整理すること、建設的な話し合いを促す司会の役割に気付くことを求める問題である。平均正答率は設問一が 52.9%（全国 54.3%）、設問二が 74.4%（全国 76.0%）であり、いずれも全国平均正答率を下回っている。

このような場面は、国語の授業に限らず他教科、日常の学校生活や社会生活でもたくさん想定される。意見が異なる場合、互いの意見の共通点や相違点を明確にすること、また、合意形成のために司会が提案の趣旨や理由を明確にしつつ、目的に沿って話し合いを進行することが大切である。

設問一は、南さんと高橋さんの相違点を見だし、高橋さんの「未来にはばたいていく私たちの姿を表す」という内容を短くまとめる力が必要である。板書は、二人の共通点と相違点が明確になるように示されている。話し合い等の際には、意見の内容を簡潔にまとめるだけでなく、対照的な内容を表や色別で分かりやすく示す等の構造的な整理の工夫も必要である。なお、小学校国語Aにおいても、右のような問題が出題されており、平均正答率は 71.8%（全国 72.4%）であり全国平均正答率を下回っている。

設問二は、司会の役割に関する問題である。学習指導要領においては、小学校3・4年生では「進行に沿って話し合うこと」、5・6学年では、「計画的に話し合うこと」が指導事項として挙げられている。これらの学習経験を想起させるとともに、意見の異なる相手の立場や考えを尊重する態度を育みながら、一定時間内に合意形成を図ることができるような能力を育てたい。

【黒板】

（議題）みんなで遊ぶ日の遊びを見直そう  
両手な人があまりいない

・すざろく	・あにっこ
・おはじき	・かくれんぼ
・あやとり	・あなわどび
・竹馬	・ドッジボール

両手な人がいる

【記録の一部】

1 出された「遊び」を、場所やルールごとにそれぞれ整理している。

2 提案の理由に合わせた複数の観点を決め、それらに合わせて「遊び」を分類している。


3 出された「遊び」を、みんなが参加できると考えられる順番に上から並べている。

4 「遊び」を整理して並べている。

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

国語B	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,366	231	4.5/9	50.5 %	5.0	2.3
全国	1,018,157	9,742	4.6/9	51.0 %	5.0	2.3

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題（例）

2	一 三	<p>複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること。 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと。</p>
		<p>2 次は、接着剤について書かれた【本の一部】と【インターネットの情報の一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【本の一部】</p>  <p>（本文省略）</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>【インターネットの情報の一部】</p> <p>（経済産業省ウェブページによる。）</p> </div> </div> <p>1 【本の一部】と【インターネットの情報の一部】の内容を比較したときの説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。</p> <p>1 接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて、【本の一部】では物をくっつける過程を述べ、【インターネットの情報の一部】では何を用いて具体的に説明している。</p> <p>2 接着剤の用途について、【本の一部】では意外なものに使われていることを述べ、【インターネットの情報の一部】では使用場面ごとに項目を立てて具体的に述べている。</p> <p>3 接着剤が液体から固体になる変化の仕方について、【本の一部】では接着剤の種類ごとに述べ、【インターネットの情報の一部】では代表的な例を取り上げて説明している。</p> <p>4 無罪にはがせる接着剤について、【本の一部】では簡単にがれる仕組みを図を用いて説明し、【インターネットの情報の一部】ではその接着剤を利用した商品を紹介している。</p> <p>5 二次の要約点のうち、【本の一部】や【インターネットの情報の一部】を使って、答えが得られるものはどれですか。次の1から5までのうち、適切なものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガラスとゴムを接着するとき、どのようなことに気をつけたらよいか。</li> <li>2 アップリケをくっつけたとき、アイロンは何度にするか。</li> <li>3 人工の歯をつける接着剤と血管をつなぎ合わせる接着剤の違いは何か。</li> <li>4 飛行機を組み立てるときに接着剤を使うと、どのような利点があるか。</li> <li>5 瞬間接着剤が非常に速いスピードで物を接着することができるのはなぜか。</li> </ol> <p>三 封筒に貼ってある切手の中しぼくを洗っておくと、きれいにはがすことができます。その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。</p> <p>なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間を書き加えたりして構いません。</p> <p>条件1 「切手」「液体」「アンカー効果」という言葉全てを使って書くこと。</p> <p>条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。</p>
		<p>【正答】 一 2</p> <p>三 （例）切手を水に浸すことで、個体となっていたのりが液体となり、アンカー効果がなくなるから。</p>
		<p>接着剤について書かれた【本の一部】と【インターネットの情報の一部】を使って、自らの課題を解決するという設定の問題である。平均正答率は、設問一が 32.3%（全国 31.4%）、設問三が 29.8%（全国 28.4%）であり、それぞれ全国の平均正答率を上回っている。</p> <p>設問一は、二つの資料の要旨を捉える問題である。それぞれの資料には文字情報とイラストがあるが、それらを関連付けるとともに二つの資料を比較して理解する必要がある。授業においては、読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように指導することが大切である。</p> <p>設問三は、伝えたい事実や事柄を明確にして説明する問題である。資料で述べられている事実と、身の回りで起きる事実とを関係付けて論理的に述べる力を育てていくことが重要である。このような力を育てるために、説明的な文章を扱う授業において、情報を的確に捉え、相手や目的に応じて取捨選択したり関係付けたりして、実際に説明する言語活動を位置付けていくことを一層重視したい。</p> <p>なお、これらの設問については全国平均を上回っているものの、約3割程度の平均正答率である。また、設問二については平均正答率を下回っている。単元における指導事項を一層明確にしなが、目標を達成するための言語活動をどう位置付けていくかを常に意識して授業づくりに臨みたい。</p>



【中学校国語における課題等】

- ◇ (A) 心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加えること。〔2一〕
- ◇ (A) 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること。〔3一〕
- ◇ (A) 集めた材料を分類するなどして整理すること。〔4一〕
- ◇ (A) 文章全体と部分との関係を考え、内容を理解すること。〔5二〕
- ◇ (A) 多様な方法で材料を集めながら考えをまとめること。〔7一〕
- ◆ (A) 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること。〔6一〕
- ◆ (A) 辞書を活用して、辞書の意味を適切に書くこと。〔8四〕
- ◆ (B) 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。〔1三〕
- ◆ (B) 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと。〔2三〕
- ◆ (B) 本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取ること。〔3一〕
- ◆ (B) 落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。〔3三〕

※ ◇…相当数の生徒ができていない問題 ◆…課題のある問題

( ) 内の記号は、A…国語A、B…国語B [ ] 内の記号は、問題番号

- 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすること、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することなどについては、相当数の生徒ができていない。
- B問題における記述式問題（〔1三〕、〔2三〕）については全国平均を上回っており、日常の授業における指導や定着確認シートの活用などこれまでの取組が成果をあげていると考えられる。しかし、平均正答率がそれぞれ 48.7%（全国 48.2%）、29.8%（全国 28.4%）と低く、課題が見られる。
- 根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書くことに課題が見られる。根拠を示すことについては意識しているものの、根拠として取り上げる内容を正しく理解していない場合、根拠の活用の仕方について問題がある場合など様々なケースが考えられる。生徒一人一人の誤答を分析し、授業に反映させていくことが求められる。
- 文章と写真、イラスト等の情報を関連付けて読むことに課題が見られる。今年度の問題にはウェブページの他、美術作品、地図など多様な資料が用いられている。今後、更に学校図書館の有効活用を図りながら、教科書と併せて多様な資料を授業で扱うことを重視したい。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分な状況が見られた。基礎的な知識・技能の定着とそれらを活用して課題を解決していく能力の育成を一体的に扱うということは、単元を貫く言語活動を工夫改善することに他ならない。学習した知識・技能について、どのように活用させるのかを見極め、単元のどの場面で、どのように指導するのかを単元計画に明確に位置付けていくことが求められる。

(4) 中学校 数学 (公立)

- 数学Aの平均正答率は64.7% (全国67.4%)、数学Bの平均正答率は56.8% (全国59.8%)であり、中学校数学については、全国平均を下回っている。
- 今後は、数学的活動をより一層重視し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるための演習とまとめの時間の充実と、それらを活用し、数学的に思考し説明する力等の育成に向けた指導の改善を図る必要がある。

① 数学A (主として「知識」に関する問題)

数学A	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,369	231	23.3/36	64.7%	25.0	8.3
全国	1,018,328	9,741	24.3/36	67.4%	26.0	8.2

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題 (例)

③ (3) ○ 方程式の利用

(3) 次の問題について考えます。

問題

ある博物館の入館料は大人1人500円、中学生1人300円です。この博物館に大人と中学生が合わせて5人で入館したとき、料金の合計は1900円になりました。  
入館した大人の人数と中学生の人数をそれぞれ求めなさい。

入館した大人と中学生の人数を求めるために、大人の人数を  $x$  人、中学生の人数を  $y$  人として連立方程式をつくります。

$$\begin{cases} x + y = 5 & \dots\dots① \\ \boxed{\phantom{000}} & \dots\dots② \end{cases}$$

①の式は、「入館した大人と中学生の人数の合計」という数量に着目し、それを両辺に  $x + y$ 、5と表してつくっています。

同じように、問題の中にある数量に着目し、それを両辺に表すと②の式をつくることができます。問題のどの数量に着目しますか。その数量を、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。また、その数量を両辺に表して  $\boxed{\phantom{000}}$  に当てはまる式をつくりなさい。

- ア 入館した大人の人数
- イ 入館した中学生の人数
- ウ 入館した大人の料金の合計
- エ 入館した中学生の料金の合計
- オ 入館した大人と中学生の料金の合計

[正答]

オを選択し、 $500x + 300y = 1900$

ウを選択し、 $500x = 1900 - 300y$

エを選択し、 $300y = 1900 - 500x$

アを選択し、 $x = \frac{1900 - 300y}{500}$

イを選択し、 $y = \frac{1900 - 500x}{300}$

連立二元一次方程式をつくらせて問題を解決するために、ある数量に着目して式をつくるかどうかをみる問題である。

平均正答率は74.4% (全国は74.1%)であり、全国平均正答率を上回っている。誤答については、着目する数量として料金の関係 (ウ～オのいずれか) を選択しているが、その関係を式に表すことができない生徒が10.0%いる。

方程式をつくる際には、問題の数量を整理し、その中から2通りに表すことができる数量を見いだして、方程式に表せばよいことを理解できるように指導することが大切である。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

11	(1)	○ 一次関数の変化の割合の意味
14	(2)	○ 確率の求め方

<p><b>11</b></p> <p>(1) 下のアからエまでの表は、<math>y</math> が <math>x</math> の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。</p> <p>ア</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><math>x</math></td><td>…</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>…</td></tr> <tr><td><math>y</math></td><td>…</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>…</td></tr> </table> <p>イ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><math>x</math></td><td>…</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>…</td></tr> <tr><td><math>y</math></td><td>…</td><td>-3</td><td>-1</td><td>1</td><td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>9</td><td>…</td></tr> </table> <p>ウ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><math>x</math></td><td>…</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>…</td></tr> <tr><td><math>y</math></td><td>…</td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>…</td></tr> </table> <p>エ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td><math>x</math></td><td>…</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>…</td></tr> <tr><td><math>y</math></td><td>…</td><td>-7</td><td>-4</td><td>-1</td><td>2</td><td>5</td><td>8</td><td>11</td><td>…</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">[正答] イ</p>	$x$	…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…	$y$	…	-2	-1	0	1	2	3	4	…	$x$	…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…	$y$	…	-3	-1	1	3	5	7	9	…	$x$	…	-6	-4	-2	0	2	4	6	…	$y$	…	-4	-3	-2	-1	0	1	2	…	$x$	…	-6	-4	-2	0	2	4	6	…	$y$	…	-7	-4	-1	2	5	8	11	…	<p><b>14</b></p> <p>(2) 下の樹形図は、3枚の硬貨A、B、Cを同時に投げる時の表と裏の出方について、表を○、裏を×として、すべての場合を表したものです。</p> <div style="text-align: center;"> <p>硬貨A 硬貨B 硬貨C</p> </div> <p style="text-align: center;">このとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求めなさい。ただし、硬貨の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。</p> <p style="text-align: right;">[正答] <math>\frac{3}{8}</math></p>
$x$	…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…																																																																								
$y$	…	-2	-1	0	1	2	3	4	…																																																																								
$x$	…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…																																																																								
$y$	…	-3	-1	1	3	5	7	9	…																																																																								
$x$	…	-6	-4	-2	0	2	4	6	…																																																																								
$y$	…	-4	-3	-2	-1	0	1	2	…																																																																								
$x$	…	-6	-4	-2	0	2	4	6	…																																																																								
$y$	…	-7	-4	-1	2	5	8	11	…																																																																								

11(1)は、一次関数の変化の割合の意味を理解しているかどうかをみる問題である。平均正答率は41.7%（全国は47.3%）で全国平均正答率を下回っている。誤答については、変化の割合を  $\frac{x \text{の増加量}}{y \text{の増加量}}$  または  $x=1$  のときの  $y$  の値であると捉えたり、 $y$  切片を変化の割合と捉えたりしていることが考えられる。このようなつまずきに着目しながら、指導に当たっては、例えば、一次関数  $y=2x+3$  について、 $x$  の値を1ずつ、2ずつ、3ずつ増やした場合の表をつくり、それぞれの表において  $y$  の増加量を調べる活動を通して、変化の割合は、 $x$  の増加量が1以外の場合でも  $\frac{y \text{の増加量}}{x \text{の増加量}}$  で求めることができるように指導することが大切である。

14(2)は、樹形図などを利用して、確率を求めることができるかどうかをみる問題である。

平均正答率は54.0%（全国は65.1%）で全国平均正答率を下回っており、無解答率は14.5%（全国は10.6%）と上回っている。確率を求めることができるようにするために、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る全ての場合の数とその事柄が起こり得る場合の数を正しく数え上げられるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、樹形図が全ての場合を落ちや重なりがなく表していることや、表が2枚、裏が1枚出る事象が樹形図のどの部分に表されているかを確認する場面を設定し、その上で、硬貨を4枚に増やした場合の樹形図をかき、様々な確率を求めさせ、技能の習熟を図ることが考えられる。

小学校第6学年で、「具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べること」（小学校学習指導要領）について学習していることを踏まえ、生徒の実態に応じた適切な指導計画を作成することも大切である。



② 数学B（主として「活用」に関する問題）

数学B	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,371	231	8.5/15	56.8%	9.0	3.8
全国	1,018,365	9,741	9.0/15	59.8%	10.0	3.9

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題（例）

- ⑥ (1) ○ 数学的な表現を事象に即して解釈すること。  
 (2) ○ 問題の解決結果を、数学的な表現をもとに評価し、改善すること。

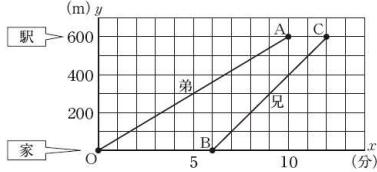
⑥ 次の問題について、グラフを使って考えます。

問題

家から600m離れた駅に向かって、弟が家を出発し分速60mで歩いています。兄が弟の忘れ物に気づいて、同じ道を追いかけました。弟が出発してから6分後に分速100mで追いかけると、兄は弟に追いつくことができるでしょうか。また、追いつくことができない場合は、どうすれば兄は弟に追いつくことができたでしょうか。

下の図は、弟が出発してからの時間を  $x$  分、家から駅に向かって進んだ道のりを  $y$  m として、弟と兄の進むようすを、それぞれ線分OA、線分BCで表したグラフです。

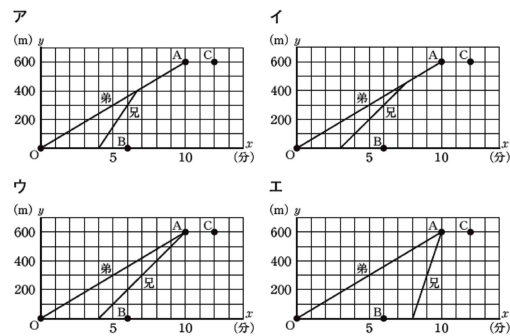
弟と兄の進むようす



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 弟と兄の進むようすから、弟が駅に着くまでに、兄は弟に追いつけないことがわかります。弟が駅に着いたとき、兄は駅まであと何mの地点にいますか。

- (2) 兄の出発する時間を変えれば、兄の速さが分速100mのままでも、弟が駅に着いたときに、ちょうど兄が弟に追いつくことができます。このようすを表したグラフを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



[正答] (1) 200 (2) ウ

設問(1)は、与えられたグラフを、事象に即して解釈することができるか、設問(2)は、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈し、問題の条件と結果を振り返って兄が弟に追いつくための条件を見直すことができるかどうかをみる問題である。平均正答率は設問(1)が63.0%（全国62.7%）、設問(2)が80.0%（全国79.8%）であり、いずれも全国の平均正答率を上回っている。

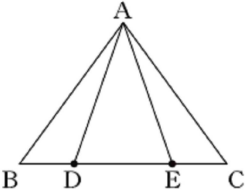
本設問を使って授業を行う際には、次のような場面を設定することが考えられる。

- 弟が駅に着くまでに兄は弟に追いつけないことを判断し、その理由を説明する場面
- 弟が駅に着いたときの兄の位置について、家からの道のりや、駅までの残りの道のりをグラフから読み取る場面
- どのようにすれば兄が弟に追いつけるかを考える場面

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

4 (1) ○ 構想を立てて証明すること。  
 (2) ○ 証明を振り返って考えること。

4 下の図のように、 $AB = AC$ の二等辺三角形 $ABC$ の辺 $BC$ 上に  
 $BD = CE$ となる点 $D$ 、点 $E$ をそれぞれとります。



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1)  $AD = AE$ となることを証明しなさい。  
 (2)  $\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。

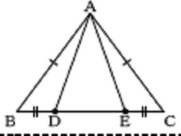
[正答] (1) 下の欄参照  
 (2) 40

設問(1)は、図形の性質を、構想を立てて証明することができるか、設問(2)は、付加された条件の下で証明を振り返って考え、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄をもちいることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は設問(1)が32.8%（全国39.4%）、設問(2)が17.4%（全国23.3%）であり、いずれも全国の平均正答率を下回っており、設問(2)は今回の調査問題の中で最も低い正答率である。

設問(1)について、証明を書くことができるためには、証明を構想する活動を取り入れ、証明の方針を立てることができるように指導することが大切である。

また、右の「証明の方針」に基づいて「証明」を書くことができるように、「証明の方針」と「証明」の対応や順番について、考える活動を取り入れることが大切である。

証明の方針	証明
① $AD = AE$ を証明するためには、 $\triangle ABD \cong \triangle ACE$ を示せばよい。	$\triangle ABD$ と $\triangle ACE$ において、 仮定より、 $AB = AC$ ……① $BD = CE$ ……② 二等辺三角形の底角は等しいから、 $\angle ABD = \angle ACE$ ……③ ①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle ABD \cong \triangle ACE$ 合同な図形の対応する辺は等しいから、 $AD = AE$
② $\triangle ABD$ と $\triangle ACE$ の辺や角について、等しいといえるものを探せばよい。まず、仮定から、 $AB = AC$ 、 $BD = CE$ がいえる。	
③ ②を使うと、①の $\triangle ABD \cong \triangle ACE$ が示せそうだ。	



証明の方針では、次の3つの事項について考える場面を設定することが考えられる。

- I 結論を示すために何がわかればよいか。
- II 仮定からいえることは何か。
- III IとIIを結び付けるには、あと何がいえればよいか。

設問(2)について、本設問を使って授業を行う際には、与えられた問題に条件を付加することで、発展的に考える機会を設け、条件に合わせて図をかき直すとともに、 $AE = CE$ などの新たな性質を見いだす活動も大切である。

【中学校数学科における課題等】

- ◇(A) 絶対値の意味を理解していること。〔1〕(3)〕
- ◇(A) 等式の性質と移項の関係を理解していること。〔3〕(1)〕
- ◇(A) 線対称な図形を完成すること。〔4〕(1)〕
- ◇(B) 空間における位置に関する情報を適切に読み取ること。〔1〕(2)〕
- ◇(B) グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善すること。〔6〕(2)〕
- ◆(A) 数量の大小関係を不等式に表すこと。〔2〕(1)〕
- ◆(A) 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解していること。〔5〕(4)〕
- ◆(A) グラフと表を関連付けて反比例を理解していることや、一次関数の変化の割合の意味を理解していること。〔10〕(4)、〔11〕(1)〕
- ◆(A) 樹形図などを利用して、確率を求めること。〔14〕(2)〕
- ◆(B) 図形の性質を、構想を立てて証明すること。〔4〕(1)、(2)〕
- ◆(B) 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。〔5〕(2)〕

※ ◇…相当数の生徒ができていない問題      ◆…課題のある問題  
 ( ) 内の記号は、A…数学A、B…数学B、〔 〕内の記号は、問題番号

- 絶対値の意味、等式の性質と移項の関係を理解していることや線対称な図形を完成すること、また、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることやグラフの特徴を事象に即して解釈し結果を改善することについては、相当数の生徒ができていない。
- 不等号を用いて数量の大小関係を適切に表すことに課題がある。文脈に沿って「以上」、「以下」、「より大きい」、「未満」のいずれかを的確に捉え、不等号を用いて表現する活動を重視することが大切である。
- 円柱と円錐の体積の関係について課題がある。平成19年度の円柱と円錐の体積を比較し正しい図を選ぶ問題の正答率は35.4%で、今年度の円柱と円錐の体積の関係についての問題の正答率は34.8%で引き続き課題がある。公式を用いて体積を求める学習に偏ることなく、予想した柱体と錐体の体積の関係を実験で確かめる活動や公式を用いて体積の関係を考察する場面を設定することが大切である。
- 過去の調査結果から、「資料の活用」領域に課題があることが明らかになっている。特に、確率に関しては、全国正答率と比べて大きく下回っていることを踏まえ、指導時数を十分確保し、試行を多数回繰り返して統計的確率を求めたり、樹形図などに整理して数学的確率を求めたりする活動を充実する必要がある。  
 (24年度A〔14〕(2)) 数字の書かれた3枚のカードから2枚のカードをひくとき、両方とも奇数のカードである確率を求める。  
 (正答率 本県：54.3%、全国：57.4%)  
 (25年度A〔15〕(2)) 大小2つのさいころを同時に投げるとき、出る目が両方とも1になる確率を求める。(正答率 本県：41.4%、全国：53.8%)  
 (26年度A〔14〕(2)) 3枚の硬貨A、B、Cを同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める。(正答率 本県：54.0%、全国：65.1%)
- 数学Bの記述式の問題では、6問すべてにおいて全国正答率を下回り、無回答率はすべての問題で上回っており、理由や方法を説明することに課題がある。判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるためには、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、的確に説明する活動を充実することが大切である。

### Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果

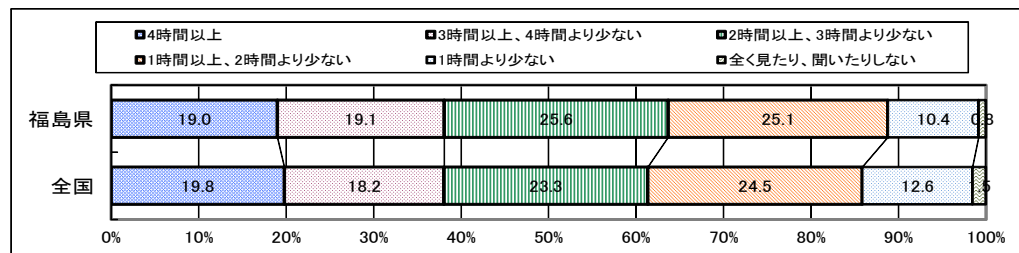
※ 主なものを取り上げた。

(1) 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームをする時間は除く）」について

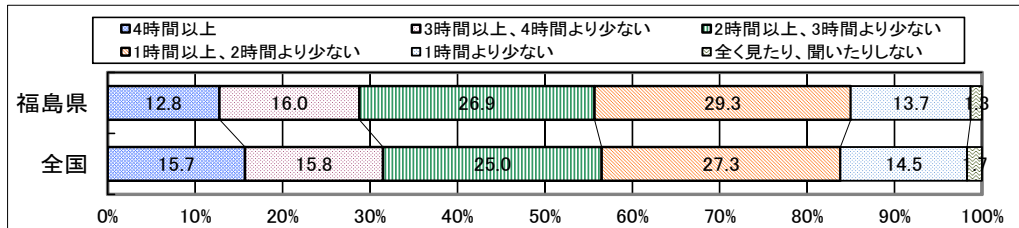
〈質問番号〉：(11)

- 月～金曜日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり聞いたりしている小学生の割合は38.1%、中学生の割合は28.8%であり、小学生の割合は全国の割合(38.0%)より高く、中学生の割合は全国の割合(31.5%)より低い。
- 25年度調査と比較すると、月～金曜日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり聞いたりしている割合は、小学生で2.7ポイント低く、中学生では1.0ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

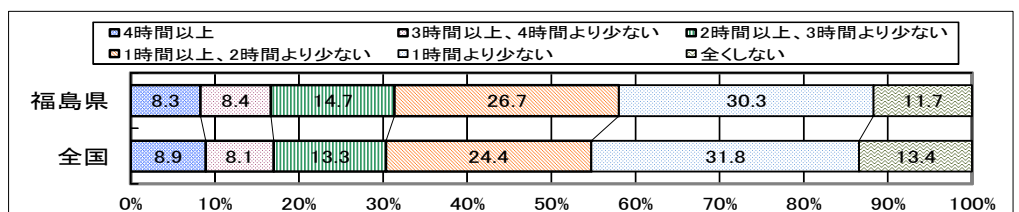


(2) 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について

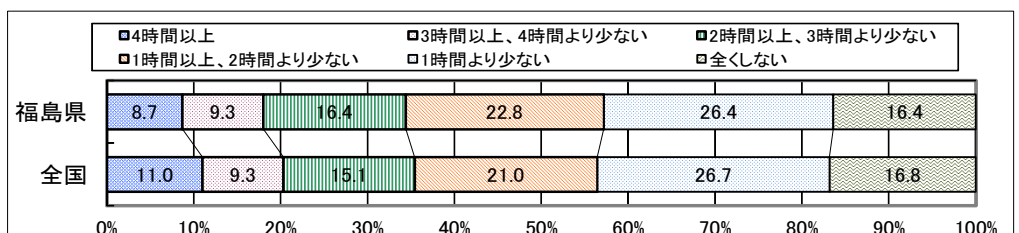
〈質問番号〉：(12)

- 月～金曜日にテレビゲームを2時間以上をしている小学生の割合は31.4%、中学生の割合は34.4%であり、小学生の割合は全国の割合(30.3%)より高く、中学生の割合は全国の割合(35.4%)より低い。
- 25年度調査と比較すると、月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している割合は、小学生で0.6ポイント、中学生で7.4ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

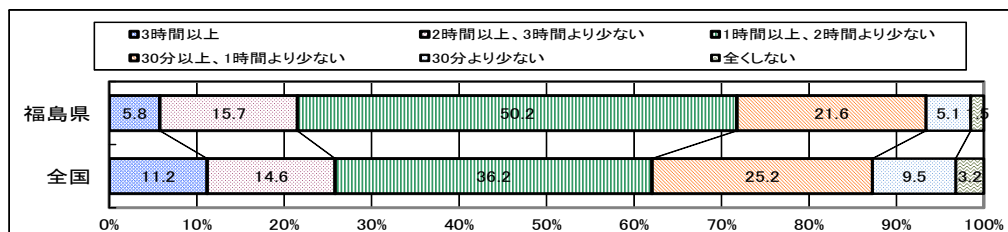


(3) 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）」について

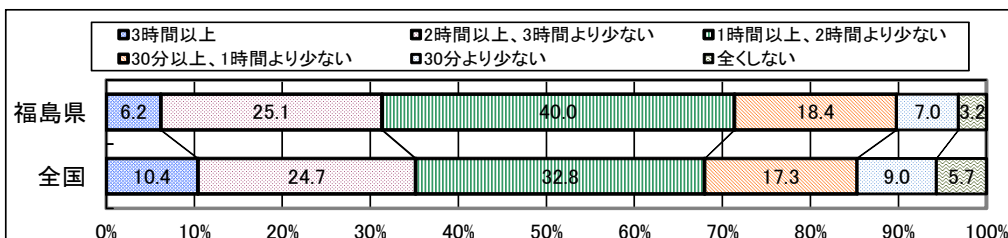
〈質問番号〉：(14)

- 学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間については、月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は71.7%、中学生の割合は71.3%であり、どちらも全国の割合（小：62.0%、中：67.9%）より高い。
- 月～金曜日の学習時間が30分より少ない、または全くしない小学生の割合は6.6%、中学生の割合は10.2%であり、どちらも全国の割合（小：12.7%、中：14.7%）より低い。
- 25年度調査と比較すると、1時間以上学習している割合は、小学生で1.8ポイント、中学生で2.1ポイント低くなっている。

【小学校】



【中学校】

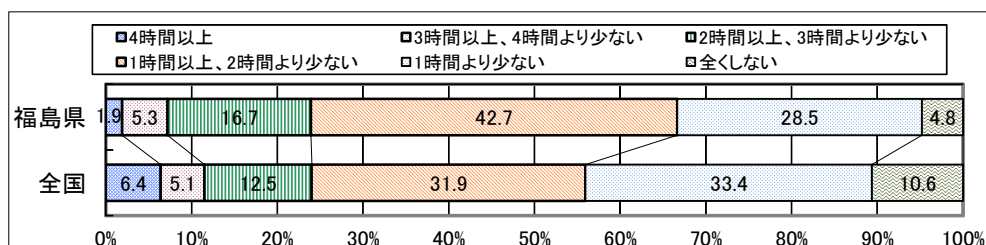


(4) 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）」について

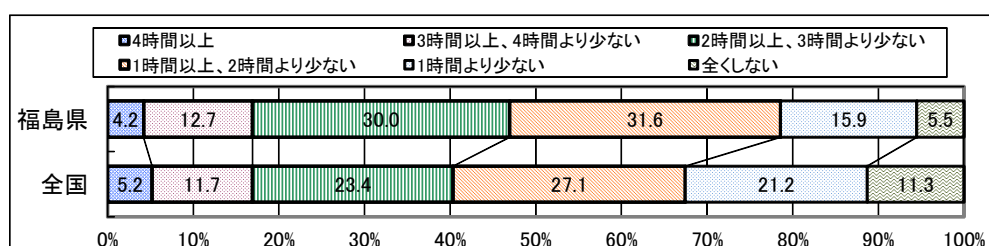
〈質問番号〉：(15)

- 土曜日や日曜日などの学校が休みの日の学習時間については、2時間以上学習している小学生の割合は23.9%、中学生の割合は46.9%であり、小学生の割合は全国の割合（24.0%）より低く、中学生の割合は全国の割合（40.3%）より高い。
- 学校が休みの日の学習時間が、1時間より少ない、または全くしない小学生の割合は33.3%、中学生の割合は21.4%であり、どちらも全国の割合（小：44.0%、中：32.5%）より低い。
- 25年度調査と比較すると、学校が休みの日に2時間以上学習している割合は、小学生で1.4ポイント、中学生で2.7ポイント低くなっている。

【小学校】



【中学校】

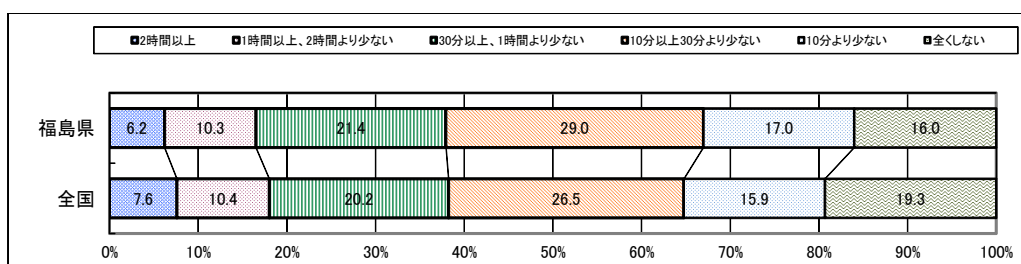


(5) 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」について

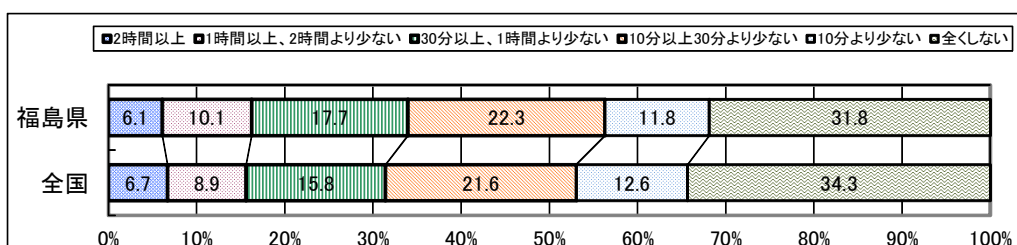
〈質問番号〉：(17)

- 月～金曜日に学校の授業時間以外で30分以上読書をする小学生の割合は37.9%、中学生の割合は33.9%であり、小学生の割合は全国の割合(38.2%)より低く、中学生の割合は全国の割合(31.4%)より高い。
- 25年度調査と比較すると、月～金曜日に学校の授業時間以外で30分以上読書をしている割合は、小学生で0.1ポイント、中学生で0.6ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

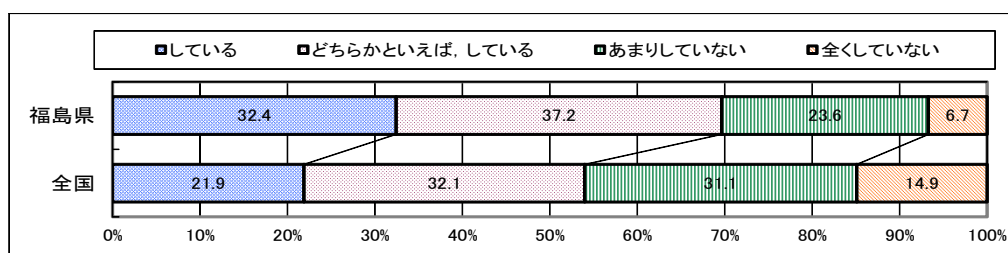


(6) 「家で、学校の授業の復習をしていますか」について

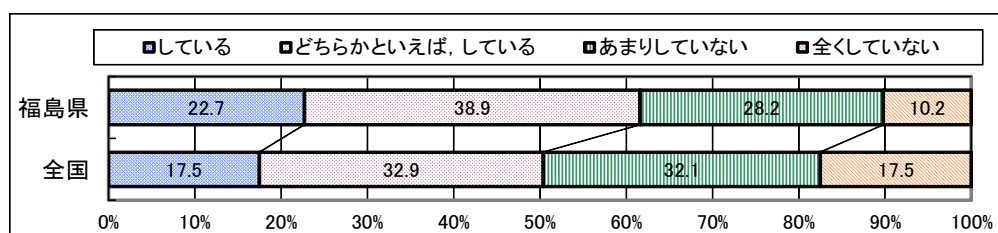
〈質問番号〉：(24)

- 家で、学校の授業の復習をしている小学生の割合は69.6%、中学生の割合は61.6%であり、どちらも全国の割合(小:54.0%、中:50.4%)より高い。
- 25年度調査と比較すると、復習をしている割合が小学生で2.3ポイント、中学生で0.6ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

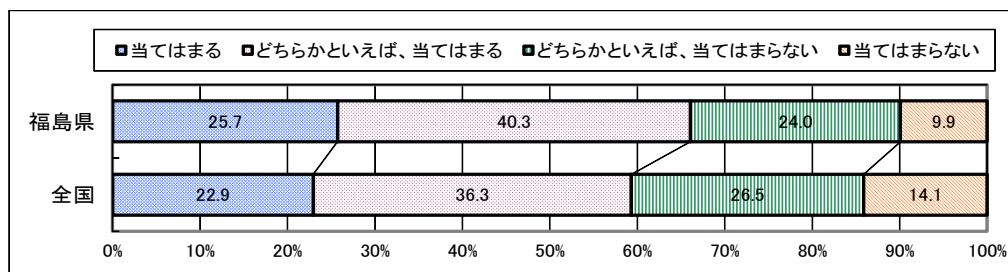


(7) 「国語の勉強は好きですか」について

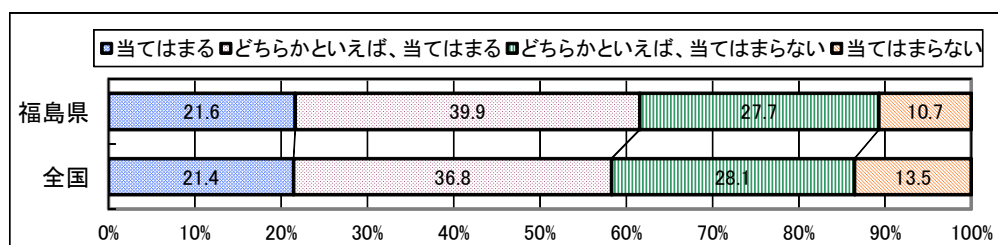
〈質問番号〉：(50)

- 国語の勉強が好きな小学生の割合は 66.0 %、中学生の割合は 61.5 %であり、どちらも全国の割合（小：59.2 %、中：58.2 %）より高い。
- 25年度調査と比較すると、国語の勉強が好きな割合は、小学生は 1.4 ポイント高く、中学生で 0.7 ポイント低くなっている。

【小学校】



【中学校】

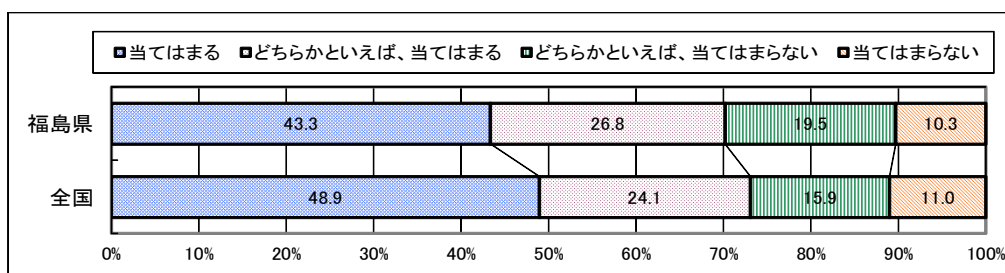


(8) 「読書は好きですか」について

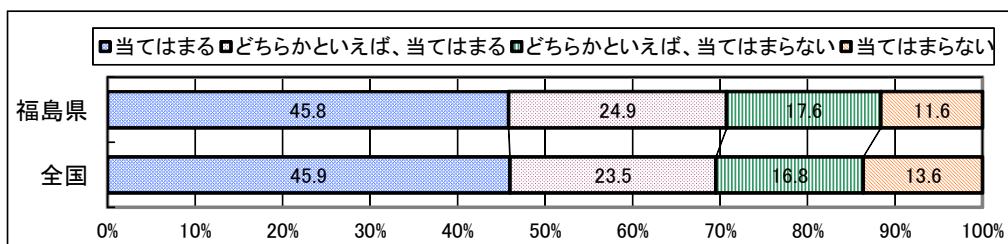
〈質問番号〉：(53)

- 読書が好きな小学生の割合は 70.1 %、中学生の割合は 70.7 %であり、小学生の割合は全国の割合（73.0 %）より低く、中学生の割合は全国の割合（69.4 %）より高い。
- 25年度調査と比較すると、読書の好きな割合は、小学生で 0.2 ポイント、中学生で 0.6 ポイント低くなっている。

【小学校】



【中学校】

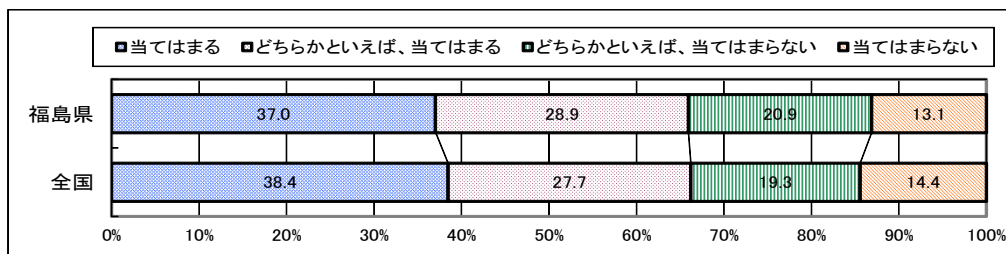


(9)「算数・数学の勉強は好きですか」について

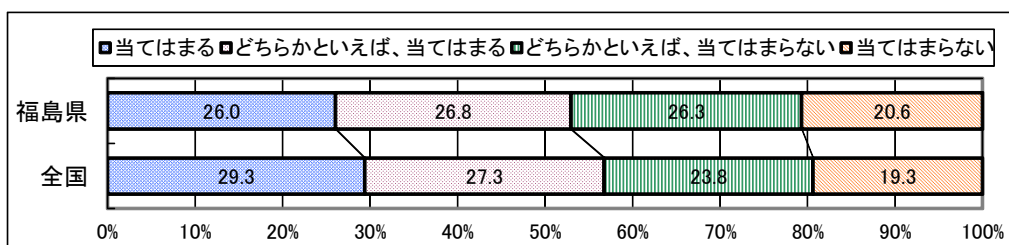
〈質問番号〉：(62)

- 算数の勉強が好きな小学生の割合は 65.9 %、数学の勉強が好きな中学生の割合は 52.8 %であり、どちらも全国の割合（小：66.1 %、中：56.6 %）より低い。
- 25年度調査と比較すると、算数の勉強が好きな小学生の割合は 0.3 ポイント低く、数学の勉強が好きな中学生の割合は 0.2 ポイント低くなっている。

【小学校】



【中学校】





## IV 今後の指導に当たって

これまで述べてきたように、小学校で改善傾向が見られるものの小学校と中学校の課題はおおむね共通しており、課題解決に向けた取組は、学習指導要領の目的や内容と軌を一にしている。今後の指導に当たっては、小・中学校の9年間を見通した継続的な取組が重要である。

### 国 語

言語や言語文化に関する基礎的・基本的な知識・技能についてはおおむね身に付いてきており、文や文章の中で適切に用いることができる傾向が見られる。しかし、多くの課題も見られることから、それらを解決していくために、以下の二つの視点を基にした具体的な指導改善を図る必要がある。

#### 【効果的な言語活動の設定】

目標を達成させるための言語活動を単元を通して授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、それらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させる。

#### 【指導事項が一覧できる年間指導計画表の作成】

授業における指導のねらいは、指導事項のどこに基づくのかをこれまで以上に明確にする。そのため、指導事項が一覧できる年間指導計画表を作成し、意図的・計画的な授業実践を積み重ねる。

#### ◇ 基礎的な知識・技能を活用する場の設定

反復練習だけで基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることは困難である。基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する場を意図的・計画的に設定する。

#### ◇ 情報を関連付ける指導の工夫

文章の解釈における学習では、文章の中の情報を比較したり関係付けたりしながら読解を進める。また、文章と図表等の資料とを併せて解釈したり、同じテーマを扱った資料を比較検討したりする。

#### ◇ 根拠を明確にして自分の考えをまとめる指導の工夫

自分の考えを説明する際には、具体的な根拠や理由を挙げるのが非常に重要である。読み取った資料を適切に活用して、必要な部分は引用したり利用したりしながら、理由や根拠を具体的に表現させるとともに、それらの妥当性についても検討する機会の設定も重視する。また、定着確認シート等も効果的に利用して自分の考えをまとめる学習を充実させる。

#### ◇ 学校図書館の有効活用

学校図書館の「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能を十分に発揮させ、国語科だけでなく他教科の学習においても学校図書館の活用を図りながら学校全体で学校図書館を有効に活用するための方策を講ずる。

### 算 数

評価の観点においては、数学的な考え方に、問題形式においては、計算方法や理由の記述式に課題が見られる。今回明らかになった課題を克服するために、日常の指

導法を評価して改善に努めることが大切である。

以下に示した5つの指導改善のポイントを念頭に置いて指導に当たりたい。

#### ◇ 児童の実態に応じた指導計画の工夫・改善

- 本調査における解答類型から児童の実態を把握（特に、誤答している児童の分析）し、それに応じたきめ細かい指導を充実する。
- 児童の実態に応じて指導計画の時数等に軽重を付け、つまずきやすい学習内容について、重点的に指導できるように工夫する。また、定着確認シート等を意図的・計画的に活用し、児童の知識・理解、技能の定着及び数学的な考え方の育成を図るようにする。

#### ◇ 授業のねらいを明確にした指導

- 授業のねらいを明確にするとともに、そのねらいが達成された児童の具体的な姿（どのような問題が解決できればよいのか、どのようなまとめができればよいのか等）を明らかにする。
- 算数的活動を通して、児童の知的欲求・好奇心を揺さぶり問いを引き出すための問題設定や提示の方法及び発問等を工夫する。

#### ◇ 数学的な見方・考え方を高める授業展開の工夫

- 授業のねらいや評価の観点に応じて、授業展開を工夫する。
- 児童がつまずきやすい考え方を意図的に取り上げ、つまずきの修正等を図る活動を意図的に取り入れる。
- 児童の思考の流れをイメージして授業を構想するとともに、児童から言葉等を引き出し、それらを価値付けて共有させるような発問等を工夫する。

#### ◇ 言語活動の充実・改善

- 言葉、数、式、図、表、グラフといった数学的な表現を活用して、自分の考え方や判断の理由等を記述する活動を授業の中に位置付ける。
- 児童同士が学び合う活動を重視し、その過程で考え方や解答を選択したり、選択した根拠等を筋道立てて説明し、それを記述したりする活動を充実する。
- 児童一人一人が学び合う活動においては、他者の考え方等を確実に理解できるように、聞き取る力の育成を図るとともに、聞き取ったことを他者に伝えることによって、児童自らが、自己の理解の仕方を振り返ることができるように指導方法を工夫する。

#### ◇ 適用問題を解く時間の確保

- 「何がわかり、何ができるようになったのか、どのような考え方がよかったのか」など、数学的な見方や考え方も含めた適用問題を準備し、児童一人一人に応じた解決の方法等にも配慮して実施する。

### 数 学

基礎的・基本的な知識・知識およびそれらを活用する力において、引き続き多くの課題が見られる。今回明らかになった課題を克服するために、日常の指導法を評価して改善に努めることが大切である。

以下に示した5つの指導改善のポイントを念頭に置いて指導に当たりたい。

#### ◇ 生徒の実態に応じた指導計画の工夫・改善

- 生徒の実態に応じて指導計画の時数等に軽重を付け、つまずきやすい学習内容について、重点的に指導できるように工夫する。また、定着確認シート等を意図的・計画的に活用し、生徒の知識・理解、技能の定着及び数学的な見方や考え方の育成を図るようにする。

#### ◇ 数学的活動を重視した指導の充実

- 授業のねらいを適切に設定し、数学的活動のどの活動に焦点を当てて指導するのかを明確にする。
- 日常的な事象を数学化（理想化・単純化など）すること、数学的に解釈することや表現すること、情報を活用すること、課題解決のための構想を立て実践すること、結果を評価し改善することなどの数学的なプロセスを重視した授業を意図的に位置付ける。

#### ◇ 教科の目標と関連付けた数学的に説明し伝え合う活動の充実

- 数、式、用語、図、表、グラフといった数学的な表現を活用して発表したり、自分の考え方や判断の理由等を記述したりする活動を授業の中に位置付ける。
- 予想した事柄を数学的な表現を用いて説明すること（事実・事柄の説明）、問題の解決の方法を数学的な表現を用いて説明すること（方法の説明）、事柄が成り立つ理由を説明すること（理由の説明）を授業の中に位置付け、目指す生徒の説明内容を明らかにして、生徒の表現をより数学的に洗練していくための指導を充実する。

#### ◇ 生徒の実態に応じた指導

- 本調査における解答類型と反応率から生徒の実態を把握・分析し、それに応じたきめ細かい指導と評価を充実する。
- 生徒がつまずきやすい考え方を意図的に取り上げるとともに、誤答箇所の指摘や修正等の活動を意図的に行う。

#### ◇ 適用とまとめの時間の確保

- 問題解決過程を振り返らせ、「どのような解決方法で、何がわかり、何ができるようになったのか、どのような考え方がよかったのか」など、数学的な見方や考え方も含めて生徒自身が意識できる時間を、毎時間確実に確保する。

### 学習習慣及び生活習慣について

#### ◇ 学習習慣について

本県の小・中学生は、家で学校の授業の復習をしている割合や、月～金曜日に1時間以上学習している割合が全国の割合より高いことから、家庭における学習習慣が定着してきていることがうかがえる。しかし、平成25年度調査と比較すると月～金曜日に1時間以上学習している割合が減少しており、今後、家庭学習の時間の確保や家庭学習の質の向上に向け、家庭となお一層連携するとともに、習熟度に応じた課題を子どもに与えるなど個に応じた支援を展開することが大切である。

#### ◇ 読書について

月～金曜日に学校の授業時間以外で30分以上読書をしている割合は、小学生がおおむね全国平均であり、中学生は全国の割合を上回っている。今後も個々の子どもたちの置かれている状況やそれぞれの興味・関心等を考慮しつつ、読書のもつ教育的効果をあげるために、折に触れ良書を紹介するなど、教師をはじめ子どもたちにとって身近な大人たちが積極的に読書指導にかかわることが大切である。

#### ◇ テレビやビデオ・DVDの視聴及びゲームをする時間について

月～金曜日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり聞いたりしている割合は、平成25年度と比べると小学生は低く、中学生は高くなっている。一方、月～金曜日にゲームを2時間以上している割合は、小・中学生とも高くなっている。今後も小・中学生ともにテレビ等の視聴時間やゲームの時間をさらに減らし、その時間を家庭学習や読書の時間に充てさせるなど、継続的な取組が大切である。

## V 各学校における組織的・継続的な取組

- 本調査は、各学校における日常の学習指導の改善・充実を図り、児童生徒の学力向上に生かしてこそ意義あるものとなる。各学校においては、校長のリーダーシップのもと、当該学年及び当該教科以外の教員を含め学校全体で本調査問題及び調査結果を分析し、自校の課題を明らかにして、より実効ある学習指導へと充実・改善に役立てることが大切である。
- その際、今回の結果を踏まえた取組の成果と課題を、「福島県学力調査」において検証し、さらに次年度の全国学力・学習状況調査を活用する…という、ロングスパンのPDCAサイクルを確立することが重要である。また、本県独自の「定着確認シート」を効果的に活用して、各単元等における学習内容の定着や活用する力の状況を把握し、つまずきの克服や日々の授業改善に結び付けるといったショートスパンのPDCAサイクルを構築し、児童生徒の学力向上のため、徹底して日々の取組を進めることが大切である。
- 本県が推進している少人数教育の意義や目的を踏まえ、その活用を図ることも重要な視点である。個別指導やグループ別指導、習熟度別指導などを、学校や児童生徒の実態に応じて、年間指導に位置付けるなど指導体制や指導方法のより一層の工夫を図ることにより、学ぶ意欲を高めるとともに、「わかる授業・できる授業」、さらには思考力・判断力・表現力等を高める授業へと転換を図っていくことが求められる。
- 同校区内の小学校、中学校が連携し、課題の共有とその解決に向けた取組を行ったり、家庭との連携により授業と家庭学習との関連を図る取組を進めたりすることなども今後の課題となる。

なお、家庭や地域、社会と連携して取り組む学力向上については、平成26年度福島県教育委員会作成の『『つなぐ教育』で確かな学力を～家族・教職員・社会人が一体となって～』を参考にされたい。

(義務教育課 HP アドレス [http://www.gimu.fks.ed.jp/shidou/kikaku/tunagu\\_h26.pdf](http://www.gimu.fks.ed.jp/shidou/kikaku/tunagu_h26.pdf))

